

F U E K I

不易

vol.41

[特集]

瀬戸内海と私

——なぜ、私は直島に現代アートを持ち込んだのか——

財団法人 福武教育文化振興財団 理事長

福武總一郎

★夢へ、世界へ踏み出す第一歩 オーストラリアプレ体験留学



瀬戸内海と私

なぜ、私は直島に

現代アートを

持ち込んだのか



理事長

福武總一郎

財団法人 福武教育文化振興財団

東京から瀬戸内へ

かつて私は、若いころは主に東京で生活をしていましたが、40歳になったときに父が急逝したため、本社のある岡山へ帰ることになり、父が進めていた直島での子どもたちのキャンプ場作りのために何度も直島を訪れるようになりました。そのプロジェクトにかかわりながら、島の人々との交流を深め、また趣味のクルーズで瀬戸内の島々を回っていくうちに、瀬戸内海の美しさ素晴らしさと同時に、歴史や文化、島々に暮らす人々の在り方を再認識するようになりました。

瀬戸内の島々の多くは、今日では離島とか過疎の島といわれていますが、近代化の波に洗われていない、かつて日本人が本来持っていた心の在り方や暮らし方、地域の原風景が残っていました。それらは民家のたたずまいであり、人々の慣習であり、近所付き合いであり、自然の恵みを直接いただくという、ある面では自給自足的な生活でもありました。

また、瀬戸内海の島々は、日本で最初の国立公園に指定されながら、日本の近代化や戦後の高度成長を支え、かつその負の遺産を背負わされた場所でもあります。直島や犬島には亜硫酸ガスを出す精錬所が建てられ、豊島は産業廃棄物の不法投棄が行われ、島々の自然と島民は痛めつけられました。また、大島はハンセン病の人々を収容する療養施設として、長い間、社会とは隔離され続けたのです。



在るものを活かし、
無いものを創る

このように、私は瀬戸内の島々と深くかかわりながら、東京での生活や社会の在り方を比較すると、これまでの自分の考え方が180度、転換していくのを感じるようになりました。つまり、「近代化」とは「都市化」と同義語であり、東京に代表される大都会は、人間が自然との営みから離れ、人間の欲望だけが固まった、化け物のような場所ではないか、ということです。そこでは、絶え間ない、刺激と興奮、緊張と享楽にあふれており、かつ人々をそれらの競争の渦のなかに巻き込んでいく社会であります。今、都会においては、無差別殺人や育児放棄を見るまでもなく、隣人には全く無関心であり、心豊かな居場所であるとはとてもいえません。子どもたちは、豊かな自然と触れ合う遊び場もなく、小さいときから経済中心の競争世界のなかに放り込まれ、洗脳されています。

そうした状況を、人々は決してよい社会であるとは感じてはいませんが、その蟻地獄のような大都会から脱出することは大変な勇気を必要とします。また、今日においても、多くの地方の若者たちは、こうした都市の魔力に吸い寄せられていきます。そしてここ瀬戸内海においても、若者は都会を目指し、多くの島には高齢者だけが残り過疎化がさらに進む事態が続いています。

私は、このような大都会の現状と、瀬戸内の人々の暮らし方を見ているうちに、近代化のベースとなっている考え方である、「破壊と創造」の文明、つまり「在るものを壊し、新しいものを創り続け、肥大化していく文明」の在り方に深い疑念を覚えたのです。そうした、「破壊と創造を繰り返す文明」から、「在るものを活かし、無いものを創っていく」という、「持続し成長していく文明」に転換していかなければいけない。そうでなければ、文化の継承と発展はできないし、我々の創ったものも、いずれ後世に抹殺されてしまうだろうと考えました。



人はいい地域に住むことで
幸せになれる

このような現代社会における、大都市の抱える問題と、瀬戸内のような地域の現状との矛盾を考えるなかで、瀬戸内の島々のような、近代化に汚染されていない日本の原風景が残る場所に、現代社会を批判するメッセージ性を持った、魅力的な現代美術を置いたら、地域が変わっていくのではないかという思いを強く抱くようになり、それを実践してきました。そうしたところ、現代美術を見るために、直島に多くの若い人たちが訪ねて来るようになり、都会では得られない地域の良さを発見したりします。また、彼らとの交流により土地の人々も、特に地域のお年寄りが、どんどん元気になっていく様子を見て、私自身も驚き、うれしくなるとともに、なぜ都会に住む人々は、心から幸せでないのだろうかということも、考えるようになりました。

都会では、人々が、「自己実現」と称して、他人よりも多くの幸せを得ようと努力していますが、それでは本当の幸せをつかむことができません。なぜなら、「人間は、幸せなコミュニティのなかにいなければ、ほんとうに幸せにはなれない存在である」からです。自己の幸福だけを追求し、そのことを競争する都会の人々は、一方では絶えず欲求不満と不安を覚えることになります。

有名なアメリカの心理学者であるマズローの説によると、人間の欲求には5段階があるといえます。アメリカにおける近代化とは、その最上位にある個人の「自己実現」の考え方と、「Cash is Kingの金融資本主義」と、「自由主義的競争原理」とがあいまって、自己の幸福を最大化する社会を目指し、結果として格差社会を生み出していきます。しかし、マズローがほんとうにいいかかったことは、人間の欲求は5段階ではなく、正しくは6段階あり、最上位には「良いコミュニティを作ること」があったといえます。マズローが活躍した1950年ごろのアメリカは、「アカ狩り」といわれるマッカーシズムが吹き荒れ、共産主義を連想する「コミュニティ」という最上位の概念を抹殺したともいいます。

それでは、幸せなコミュニティはどこにあるのでしょうか。現在も、世界の多くの人々は、そうしたユートピアは現世にあるのではなく、天国や極楽にあり、死んでから行けるものだと思っているようです。果たしてそうでしょうか。来世の天国が良かったと帰って来た人は一人もいないのです。

お年寄りの
笑顔があふれる
直島

私は、直島のお年寄りたちが、現代美術に馴染み、島を訪れる若い人々と笑顔で接してどんどん元気になっているのを見て、幸せなコミュニティとは「人生の達人であるお年寄りの笑顔があふれているところ」と定義することができました。どんな人生であったとしても、お年寄りは人生の達人者であり、彼らは「年をとればとるほど幸せである」べきです。人生の達人者が、足腰は弱くなっても、多少記憶力が落ちてても、笑顔があふれているということは、不安で将来の见えない現在の若い人にとっても、笑顔のある将来の自分たちの居場所がある、ということでもあります。人間には、お母さんが笑えば赤ちゃんも笑うという「母子相互作用」といわれる本来的な現象がありますが、同じように、お年寄りの笑顔は若者を笑顔にします。

そうした理由で、今や直島は世界で一番幸せなコミュニティであり、海外からも多くの人々が訪れるようになりました。島を訪れた方々は、ぜひ島の人たちに会っていただきたい。そして、私は、直島における、この世の極楽のコミュニティの経験を、さらに直島以外の瀬戸内の島々にも広げ、それも直島と同じものではなく、それぞれの島の文化や個性を活かした形で、島の人々やボランティアの皆さんと一緒に創ろうと思いました。

そして、そのことができるメディアは、良質の現代美術を除いてまだ私は知りません。現代美術は、人々を覚醒させ、地域も変える偉大な力を持っていると信じています。私もお手伝いさせていただいた「越後妻有トリエンナーレ」（大地の芸術祭）の総合ディレクターである北川フラムさんの協力も得て、この「瀬戸内国際芸術祭 2010」のプロジェクトがいま始まっています。



瀬戸内海から
新しい文明観を
発信

「近代化とは都市化」の時代であると述べ、今の大都市の在り方を大いに批判しましたが、私は近代化や都市化を全く否定するつもりはありません。「都市」というのは人間にとっては、人々の気分を自由にし、魅力ある空間であることも事実です。日本にも、東京の真似ではなく、もっとそれぞれの地域の歴史と文化を活かした都市が生まれることを期待しています。

現代社会に対するメッセージを持った現代美術を媒介にして、そうした都市と、自然あふれ個性ある島々を繋ぐことによって、都会と田舎、そしてお年寄りと若者、男と女、そこに「住む人々」と「訪れる人々」とが互いに交流し、お互いの良さを発見し、認め合うことができます。そのことが都市に住む人々にとってもいい影響を与え、過疎といわれる地域も蘇り、それぞれの地域の持つ多様で豊かな文化を活かしていく「バランスのとれた価値観の社会」ができることを期待しています。そして「在るものを活かし、無いものを創っていく」という 21 世紀の新しい文明観を、ここ瀬戸内海から、世界に発信していきたいと思います。



公益資本主義を
目指す

私は慈善活動家でも評論家でもありません。地方の一事業家です。そして富の創造は、ほとんどが企業活動からによってなされることを知っています。わが社（ベネッセホールディングス）が目指していることは、現在、世界経済を崩壊に陥れている「金融資本主義」とは対極にあります。それはお金だけが経済活動の目的ではないということであり、そのことを私はよく「経済は文化の僕である」と呼んでいます。人々を心豊かにするのは経済活動だけではできません。経済の繁栄だけを目的化すると、かえって人々は不幸になると思います。文化、すなわち「人々が幸せになれる、いいコミュニティづくり（お年寄りの笑顔があふれる社会づくり）」のために経済はあるのだと私は思います。

現在私は、その具体的な実現のために「公益資本主義」という新しい経営の概念を提唱しています。それは、その企業が、文化や地域振興を明確な目的とする財団を創設し、その財団がその株式会社の大株主になり、そこで得られた配当を資金として、社会に貢献できる仕組みを作ることです。この「公益資本主義」の考えとその実践とその成果を、世界へ伝えていきたいということです。

アートによる地域の再生とこの世のユートピア創造、そしてそれを可能にする新しい公益資本主義の考え方。こうした文化と企業の新しい在り方、考えを世界へ広げていくのが「瀬戸内国際芸術祭」の持つひとつの意味だと私は思っています。



⑨平成 22 年 8 月 6 日、直島ベネッセハウスで開催された「瀬戸内国際シンポジウム 2010」におけるスピーチより抜粋。

協力 = 財団法人 福武学術文化振興財団

写真提供 = 瀬戸内国際芸術祭実行委員会
Photo(All)=Osamu Nakamura

夢へ、世界へ 踏み出す第一歩 ★ ★ ★ ★ ★ ★

—— オーストラリア プレ体験留学 ——



日本中が暑さに唸った 2010 年 8 月。
我々、海外教育事情調査団とプレ体験
留学生は真冬のオーストラリア、メルボルンへ飛んだ。

目的は総合職業専門学校「TAFE」の視察。
広大な敷地と充実した施設が並ぶ。整い過ぎとも感じるその環境の中、
それぞれの夢へ向かって一生懸命にそして伸び伸びと学ぶ学生たち。
プレ体験留学生 21 人の目に、それはどう映ったのだろうか。

- @mako 自分の将来のために今必要なものは何か、を深く考える機会となった
- @ayumi 改めて自分の進路を見つめ直すことができ、自分の進路に新たに「留学」が加わった
- @hitomi 自分の夢を叶える手段というものがたくさんあることがわかった
- @fumika できないことはないと思うから、一歩踏み出してみることが大切
- @risa 想像していた「世界」が以前より大きくなり、自分の中の視点もずいぶん増えた
- @yuko 英語は実践的に使わないといけない。そのために留学をしてスキルを身につける
- @megumi 失敗を恐れず行動してみることの大切さを学ぶ
- @saya 海外への関心が高まり留学について真剣に考えるようになった
- @miki 英語が話せないから外国の方とは話したくない、と諦めている人はとてももったいない
- @shinichi 将来の夢を叶えるための選択肢に「留学」という道を加えた
- @chizuru 自分の夢に向かって必死に勉強している人は本当に輝いている
- @akiko TAFE では生徒が自ら考えて活動できるような環境が整っていた
- @eri_s 留学は自分の志・意欲次第だ。作品や活動意欲が重視される魅力がある
- @chiharu 日本と全く違う授業スタイルに驚き、日本の外に出て日本の良い所を感じた
- @chika 色々な国の文化や価値観、考え方を知れてもっと大事なことがあると実感した
- @eri_t 留学とは、何か新しいものを見つけるもの
- @chihiro 10 年後、20 年後を見据えて学び、未来に羽ばたける人材になることが大切
- @yumiko 自ら動き、自ら考え、自ら信じることの大切さ。何より今の自分を変えることができる場所
- @atsushi 英語をマスターできれば自分の世界、視野を広げることができる
- @saki 自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることで今までの世界観が大きく変わってくる
- @miho 英語に自信がない人でも、やる気さえあれば気軽に留学できる

明らかに生徒たちの目の輝きは変わった。自分の意見をどうにか伝えようと頑張った。
日本を離れ、外国を知ることで日本の現状、自分の生活についての問題点に気付く。グローバル社会への対応が必要とされる今、まず今の日本を知り、その中に居る自分を振り返ることがグローバル社会へ足を踏み出す一歩となるのではないだろうか。

今回の視察について、報告会を 2 月 26 日（土）に開催します。詳細は下記の『Information』をご参照ください。なお当日配付予定の報告書が必要な方は事務局までお問い合わせ下さい。（財団 U）

Information

オーストラリア プレ体験留学報告会 ベネッセ海外進学説明会

開催日 平成23年2月26日（土） 14:00～16:00
会場 株式会社ベネッセコーポレーション本社
内容 プレ留学に参加した高校生の体験談とベネッセコーポレーション担当者による留学説明会・相談会
主催 財団法人 福武教育文化振興財団
共催 株式会社ベネッセコーポレーション

財団法人 福武教育文化振興財団 助成先の活動

◆備中温羅太鼓 [全席指定]

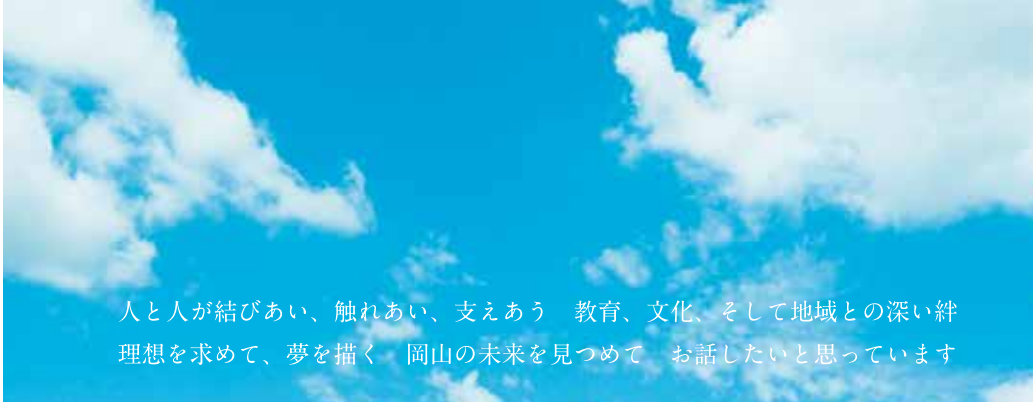
開催日 平成23年2月20日（日） 14:00開場 15:00開演
会場 岡山県総社市市民会館階
主催 備中温羅太鼓

◆平成22年度学力・人間力育成推進会議 第2回交流連絡会

開催日 平成23年2月20日（日） 13:00～
会場 岡山プラザホテル
内容 研究団体による発表及び指導顧問の東京大学大学院市川伸一教授からの指導助言
主催 学力・人間力育成推進会議

平成23年度 教育研究助成・文化活動助成の募集は終了いたしました！

平成23年度教育研究助成は107件、文化活動助成は198件の応募がありました。
たくさんのご応募ありがとうございました。
審査委員会は教育研究助成が2月23日、文化活動助成が3月7日に開催され、その後理事会で決定いたします。審査結果については、採択の可否にかかわらず3月末までに申請者全員に文書でお知らせします。



人と人が結びあい、触れあい、支えあう 教育、文化、そして地域との深い絆
理想を求めて、夢を描く 岡山の未来を見つめて お話したいと思っています

A society where people band together, communicate with one another and support one another,
A society that thrives on solid education, a rich culture and strong community ties
To build such a society, we turn to our ideals and dreams.
To imagine the future of Okayama, we would like to start a conversation with all of you.

福武教育文化振興財団の活動

I 表彰事業

岡山県の教育・文化の振興に大きく貢献した個人・団体、または今後の活躍が
期待される個人・団体

- ◎福武哲彦教育賞・谷口澄夫教育奨励賞
- ◎福武文化賞・福武文化奨励賞

II 助成事業

教育関連助成

- ◎教育研究助成（公募）——教育研究及び実践活動に助成
- ◎研究大会助成（公募）——教育研究大会や教育的な行事などに助成
- ◎特定教育助成 ——教育課題について実践的かつ先進的な研究に助成
- ◎英語研修助成 ——小学校教員の英語力向上のための研修に助成
- ◎学力・人間力育成推進事業助成 ——児童生徒の人間力育成と
学力向上を目指す地区に助成

文化関連助成

- ◎文化活動助成（公募）——地域住民の主体的な文化活動に助成
- ◎瀬戸内文化育成助成 ——瀬戸内海地域の文化育成につながる活動に助成
- ◎指定文化財保全助成 ——地方公共団体が行う指定文化財の保全事業に助成
- ◎特定文化助成 ——主要文化団体の活動に助成
- ◎その他助成 ——緊急を要する文化活動に助成

III その他

- ◎海外教育研修事業
- ◎講演会

季刊

不易

F U E K I vol.41 2011.2.25

編集・発行：

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作：
株式会社 吉備人
デザイン：
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷：
広和印刷株式会社

表紙写真【直島・直島銭湯I♡湯】Osamu Nakamura



FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION

人づくり、地域づくりを応援します

財団法人 福武教育文化振興財団